

中部経済新聞

2022年(令和4年)

3月30日
水曜日

発行所
中部経済新聞社
〒450-8561
名古屋市中村区
名駅4-4-10

編集局 052(561)5212
読者開拓局 052(561)5216
広告部 052(561)5213
事業部 052(561)5675
総務部 052(561)5215
東京支社 03(3572)3601
©中部経済新聞社2022

購読のお申し込み
☎0120・605・123

モビリティ新時代へ

中部サプライヤーの挑戦

〔12〕

けている。

電動車向けに、高速回転



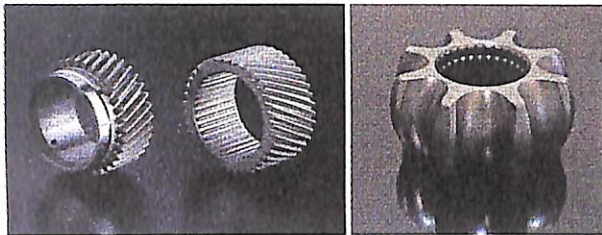
樋田克史社長

に対応できる歯車の提案も重点的に進めている。冷間鍛造の工程のみで高精度に仕上げ、従来品のように歯面を磨く工程を省ける。高い価格競争力などを発揮できるとみて、減速機向けの

冷間鍛造で電動化に挑む

冷間鍛造部品などを製造するアイコクアルファ(本社稲沢市)は、電動化に対応できる製品開発に挑戦している。生かしているのは強みの冷間鍛造技術だ。冷間鍛造では高精度な成形を追求してきた。現在は従来に比べ高速の回転にも耐えられるインナーレース(内輪)や歯車の開発を目指している。また将来のカーボンニュートラルへの取り組みも全社挙げて推進中だ。

アイコクアルファ



冷間鍛造で高精度に成形しているインナーレース(右)とサンギヤ

への耐性を高めたインナーレースの開発に取り組んでいる。現在はボールを保持するため溝を六つから八つに増やして一つの溝に加わる力を抑えるタイプ、溝を六つのままにして大型化したタイプの計2種類の開発を進めている。また、高速回転

受注獲得を狙っている。

歯車づくりは内燃機関車

向けで磨いてきた。もともと自動変速機(AT)用のサンギヤを、冷間鍛造のみで成形して造っている。表面を滑らかにして高い耐久性を実現。車両の静粛性にも貢献している。米ゼネラル・モーターズ(GM)やマツダなどのATに採用されてきた。減速機向けの歯車開発でもAT用サンギヤのノウハウを生かす。

このほか、2030年ま

高回転の内輪や歯車開発目指す

樋田克史社長は「そもそも冷間鍛造は熱を加えることなく成形し、切削する部分も比較的少ない。今後冷間鍛造を通じて環境貢献に取り組み」と力を込める。

これら将来への取り組みを進める一方で昨年には創業の地に多目的広場「いこの広場」を開設した。地元には軸足を置いたまま、将来の成長を目指している。(勝又佑記 毎週水曜日掲載)

△会社プロフィール▽本社は稲沢市祖父江町森上本郷十一4の1。創立は1943年。自動車部品以外にハンドクレイン「ラクラクハンド」や航空機部品などを手掛けている。20年度の売上高は約233億円。従業員数は約1040人。

で二酸化炭素(CO₂)排出量を13年度比46%減らす目標を掲げて、全社的に環境分野の取り組みを加速している。製造部門では省エ